◎快挙◎ 須賀 暁（さとる）さん（山崎出身） 日本代表選手に選出

須賀暁さん（山崎出身）が令和3年11月に、タイ・チェンマイで開催されるトレイル&マウンテンランニング世界選手権2021の日本代表に選出されました。

トレイルランニングとは舗装されたフィールドを走るマラソンとは異なり、未舗装・起伏のある山道をランニングする陸上競技です。大自然の景観を楽しみ、また泥や木の根などの障害物などの危険を回避しながら走るスポーツで、広く世界で行われています。

コロナ禍において走る楽しみを再認識し、少しずつ積み重ねた結果が今回の日本代表に繋がったと話す須賀さん。町出身の須賀選手が活躍する姿が大いに期待されます。

頑張ってください！

Special　Interview

須賀　暁
Satoru Suga

昭和63年5月8日生
Columbia Montrail　所属
山崎出身
金山中学校　卒業
山形中央高校　卒業
東北学院大学　卒業
JR東日本　入社

このスポーツを始めたのは大学生のころです。高校、大学と長距離走に取り組み、そのトレーニングとして登山はしていたのですが、レースを知ったきっかけは同じ山崎の小野智彦さんです。智彦さんが仙台泉ヶ岳のレースに出た際の話を聞いて興味を持ちました。

初めて大会に参加した際に驚いたのはお祭りのような雰囲気。参加する選手それぞれが楽しんでおり、順位やタイムにとらわれない価値観を新鮮に感じたことを覚えています。あれから10年以上が経ち、今年33歳になります。始めたばかりの頃は、自分が日本代表になれるとは思いもしませんでした。

思い返せば、金山町の自然の中で育ったことが今に繋がっていると感じています。当時はトレーニングというよりも友達と走り回って「遊んでいる」感覚だったのですが、そんな日々のおかげで今の私があると思うと、生まれ育った環境に感謝ですね。小・中学校では野球、クロカン、陸上と切磋琢磨する仲間にも恵まれました。両親と祖父母が作るお米と野菜も、私の体を強くしてくれたのかもしれません。そんな私にとってのトレイルランニングは、あの頃と同じように全力で「遊んでいる」感覚。だから楽しめているのだと思います。また、プロとして活躍する若い選手も増えていますし、40歳を超えて活躍する選手もいます。競技人口も増えてきており、とても将来性のあるスポーツだと思います。この自然溢れる金山町から、私を超える選手が現れる日も近いのではないでしょうか。

今回は昨年末に行われた選考レースで3位に入り代表を決めました。世界選手権本番では80kmのロング部門を走ります。累積標高差と言われる登る高さの合計は4000mから6000m程度の予定です。80kmの内に富士山2回分近くを登り降りすることになります。初めての山を楽しむことはもちろんですが、応援してくれる家族やお世話になった方々に恩返しが出来るよう、日本人として初の入賞、また団体でのメダル獲得を目指して頑張ります。

1

2

1_ 選考会となった伊豆トレイルジャーニー
2_海や川の近くを走ることも。

＼ 須賀さんを応援 ／

小野　智彦さん（山崎）

暁とは同じ山崎の近所で、物心ついた時から一緒に遊んでいた気がします。山崎の広範囲を使って鬼ごっこをしたり、何かと競争したり、野球、クロカン、陸上、今現在では働く会社も一緒です（笑）。暁が競技に取り組む姿勢はとにかく真面目であり、中学生の私は、暁の走りに対する情熱をネタに作文にした程でした。

初めて暁と一緒に山を走ったのが10年前くらいで、場所は仙台市の泉ヶ岳。私もその頃トレイルランをしていて、そこそこ自信を持っていたのですが、暁の登りの速さに衝撃を受けました。そこからあっという間に日本のトップに上り詰めたんです。

この度、世界選手権出場が決まり、その間の苦労や努力を知っている分、本当に嬉しく思いましたし、仕事と走りを両立するなんて信じられません。今話題の二刀流ですね（笑）。舞台は大きく、プレッシャーは計り知れないと思いますが、金山町で培った、かけっこを純粋に楽しむ気持ちで、世界選手権に臨んで欲しいと思います。

「頑張れ暁！」